

第58回日本臨床検査医学会開催報告

The 58th annual meeting report for the Japanese Society of Laboratory Medicine

会長 小出典男 (岡山大学名誉教授)

Norio Koide (Professor Emeritus, Okayama University)



小出大会長挨拶

ことの始まりは、日本臨床検査医学会の中四国支部長を担当していた2年前に遡ります。理事会で突然平成23年度の学術集会長に岡山大学の小出先生を推薦したいとの理事長の発言があり、了承されました。特に私がこれを希望したわけではありません。しかし、この決定から平成23年11月17日の学術集会の開催までの2年間の苦しみの日々が始まりました。問題は本来臨床検査自動化学会での機器展示収益金の50%が臨床検査医学会の学術集会の補助金となることになっていたが、平成23年度は大きく減額もしくは停止になるかも知れないという事態に発展してしまったのです。この補助金なしには学術集会の予算が立てられない状態が開催日まで続いていました。

受諾から1年後の第57回学術集会で、プログラム委員会を発足させて大枠でのプログラム編成方針を決め

ました。学術集会の運営は日本コンベンションサービス株式会社関西支社にお願いすることとし、定期的に打ち合わせを行い演題募集が始まろうとしていたところ、平成23年3月11日にあの東日本大震災に見舞われ、その後、開催予定の他の学会が次々に開催中止や延期を発表。本学会も「他の学会の動向を見たうえで開催の可否を決定」の方針としました。日本中が東日本大震災の影響で混乱していた時期でもあり、思い切って開催返上も検討しましたが、すでに協賛企業の募集も開始しており、ホームページを開設して周知の取り組みも進めていた段階であったことに加え、他施設に開催を依頼するには時間的猶予もなく、日本中どこも新規学会開催を引き受けることを考える余裕のない時期であったため、当初の予定通りの実施に向け一同努力することが決まりました。ところがさらに追い打ちをかける出来事が起こったのです。平成23年3月中旬に、大学を退職して香川県病院事業管理者として赴任してほしいとの大学執行部からの強い要請が始まりました。学会開催も控えており、この要請を断り続けたが最終的には断りきれませんでした。4月以後の半年は、予算が組めないことに加えて定期的に大学での学会開催に向けた打ち合わせのための高松・岡山の頻回往復が続いたのです。試練は、その後も続きました。協賛企業の募集の時期が、東日本大震災の復興資金および義援金募集の時期と重なり、多くの企業は学会向けの経費を東日本大震災の義援金に振り向ける事を決定しました。また実際に被災した企業は、大半が学会の支援どころではない状況に追い込まれているようでした。学会開催を決めた当初の収支計画は徐々に大きく狂い始め、やむなく開催計画自体の大幅な見直し作業に着手。まずは徹底した歳出削減。もともと質素な学会を計画していたため、支出の見直しも容易ではありませんでした。

受付や会場係、クロークなどの学会スタッフをアルバイトからボランティアに変更。華やかな看板や装飾も

すべて中止。会場内の物品（パソコンやプロジェクターなど）もスタッフの私物をボランティア提供し、備品のレンタル料も極限まで抑えました。海外から招聘した特別講演の演者の交通費や講演料までも減額交渉。懇親会の経費削減のため、会長自ら手掛けている家庭菜園から無農薬野菜を持ち込んで調理（持ち込み料免除!!）。魚は自ら漁港に出向いて買い付け。すべてを宴会場に持ち込んで（もちろん持ち込み料免除!!）食材の経費を極限まで切り詰めました。

平成23年11月17日には会場設営が行われ、保健学科や検査部の検査技師の方、メーカーの労務提供者などが準備にあたり、会場の設営が終わると例年通り多くの委員会が開催され、400人ほどの出席がありました。中でも評議員会は意見続出で、予定の時間を1時間も超過して振興会主催による機器展示の分担金問題と学術集会開催予算に関する議論が行われました。一番ありがたかったのは、この評議員会で自動化学会との協議がどのようになろうとも、従来通りの分担金額を学会として担保してくれることが決まったことでした。この件については執行部と評議員の皆様は心より御礼申し上げる次第です。

18日午前8：45に私の開会挨拶で学術集会が始まりました。特別講演には日本腎臓学会理事長で岡山大学病院の榎野病院長と私の30年来の古い友人であるピッツバーグ大学臨床病理学教授アラン・ウエルズ博士の講演を頂きました。会長講演は遠慮させていただき「途

上国における医療支援と臨床検査」と題して AMDA 理事長 菅波茂先生、ザンビア HIV/エイズケアサービス管理展開プロジェクトで活躍中の橋本尚文臨床検査技師、企業からシスメックス株式会社の発表をいただいた。私としては特別講演でのアラン・ウエルズ博士による「Laboratory Medicine：A view to the future of Diagnostics and Training」と題する講演で先進国が見据えている臨床検査医学の将来像と、現状で多くの困難に直面している途上国の臨床検査医学の対比を参加者に示したかったのです。そうした思いが通じたかどうかはわかりませんが、盛況の会長シンポジウムでした。このほか別表のプログラムのように11つのシンポジウム、5つの教育講演に加えて1セッション4時間にわたる信州大学本田孝行先生のClinicopathological Conferenceと自動化学会共催のPOCセミナーが開催されました。14社提供のランチョンセミナーと5社提供の機器試薬セミナー、移動式展示トラックを含む機器展示も数社参加いただきました。一般演題は400題、参加者総数1,400人超となり、当初の目標をクリアすることとなりました。一応主催者としてはまずまずの盛会であったのではないかと自負しています。最後になりましたが、再度教室員一同はじめ学会運営にご協力いただいた岡山大学病院検査部の技師の方々ならびに保健学科の教員と学生にこころより感謝を申し上げてこの学会報告を終わりたいとおもいます。



一般演題風景（一般演題総数486）



学会を支えた教室スタッフ

第58回日本臨床検査医学会プログラム

特別講演

- ・我が国における慢性腎臓病（CKD）対策の現況と今後の展望

槇野 博史

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学

- ・Laboratory Medicine : A view to the future of Diagnostics and Training

Alan Wells

Dept. Pathology, Pittsburgh University School of Medicine

会長シンポジウム 1

途上国における医療支援と臨床検査

司会 小出 典男（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 総合内科）

演者 小出 典男（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 総合内科）

船越 國宏（シスメックス株式会社 ソリューションセンター 学術本部）

菅波 茂（特定非営利活動法人アムダ）

橋本 尚文（ザンビア共和国 HIV／エイズケアサービス管理展開 プロジェクト検査サービス強化担当）

教育講演 1

血小板機能の新しい展開：血栓以外の役割

尾崎由基男（山梨大学医学部 臨床検査医学）

教育講演 2

肺移植の現状と将来

伊達 洋至（京都大学医学部附属病院 呼吸器外科）

教育講演 3

IgG4 関連疾患

佐藤 康晴（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病理学）

教育講演 4

鉄代謝最前線

高後 裕（旭川医科大学 血液腫瘍学）

教育講演 5

話題の耐性菌と新しい抗菌薬療法

舘田 一博（東邦大学医学部 微生物・感染症学講座）

シンポジウム 1

臨床検査技師認定制度の現状と今後

司会 水口 國雄（帝京大学医学部附属溝口病院 臨床病

理科）

三村 邦裕（千葉科学大学大学院危機管理学研究科）

シンポジウム 2

新しい臨床検査技術の開発

司会 前川 真人（浜松医科大学医学部医学科）

安東由喜雄（熊本大学大学院生命科学研究部）

シンポジウム 3

今、超音波画像診断で何がわかるのか？

司会 竹中 克（東京大学医学部附属病院 検査部）

畠 二郎（川崎医科大学 検査診断学）

シンポジウム 4

生理機能検査の現状と新たな展開

司会 諏訪部 章（岩手医科大学医学部 臨床検査医学講座）

尾本きよか（自治医科大学附属さいたま医療センター 臨床検査部総合医学第1講座）

シンポジウム 5

ISO15189取得と今後の展望

司会 栢森 裕三（九州大学病院 検査部）

高木 康（昭和大学医学部 医学教育推進室）

シンポジウム 6

健診における動脈硬化ハイリスク患者のスクリーニング検査 臨床的な意義に差があるのか？

司会 三井田 孝（順天堂大学医学部 臨床検査医学講座）

吉田 博（東京慈恵会医科大学附属柏病院 中央検査部）

シンポジウム 7

抗菌薬耐性菌感染症の検査室での対応

司会 藤田 直久（京都府立医科大学 感染制御検査医学／京都府立医科大学附属病院 臨床検査部・感染対策部）

米山 彰子（虎の門病院 中央検査部・臨床感染症科）

シンポジウム 8

EBLM の過去・現在・近未来

司会 市原 清志（山口大学大学院医学系研究科（保健学系学域）生体情報検査学）

山西 八郎（大阪大学医学部附属病院 医療技術部検査部門）

シンポジウム 9

がんの分子標的治療と遺伝子検査

司会 日野田裕治（山口大学大学院医学系研究科 臨床検査・腫瘍学）

宮地 勇人（東海大学医学部 基盤診療学系 臨床検査学）

シンポジウム10

血液疾患への統合的アプローチ～診療科と検査部門
の連携

司会 張替 秀郎（東北大学大学院医学系研究科 血液・
免疫病学分野（血液・免疫科））

通山 薫（川崎医科大学 検査診断学）

シンポジウム11

感染症の医療安全

司会 三井田 孝（順天堂大学医学部 臨床検査医学講座）

メ谷 直人（国際医療福祉大学熱海病院）

一般演題 486題

イブニングセミナー 3件

ランチョンセミナー 12件

POC セミナー 1件

RBLM 委員会主催セミナー 1件

各種委員会

参加者

一般（有料）：1,332名

学生：81名

共催シンポ：16名

招待者：154名

名誉会員：9名

合 計：1,592名